

○ 臓器移植について

臓器移植は臓器の機能が低下し、移植でしか治らない人と死後に臓器を提供してもいいという人とを結ぶ医療です。

日本で臓器の提供を待っている人はおよそ1万2千人。臓器の提供が少なく、数多くの人が移植を希望しながら亡くなられています。

日本で事故や病気で亡くなる人は毎年およそ90万人。その1%弱、約7千人が脳死になって亡くなると言われています。

自分が脳死となって最期を迎えたとき、誰かの命を救うことができます。

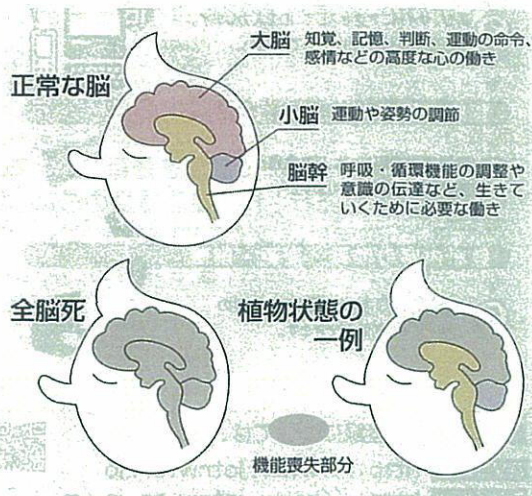
あなたの意思が必要です。家族と話し合っ、臓器提供意思表示カードやシールに記入しましょう。

○ 脳死ってどんな状態ですか？

脳全体の働きが無くなり、人工呼吸器などの助けがなければ心臓が停止してしまう状態です。

しばらく器械で心臓を動かし続けることもできますが、やがて数日後には心臓もとまってしまう。(小児では心臓がとまるまでに、長期間を要する事例の報告もあります。)

脳の機能が残っていて自分で呼吸できる「植物状態」とは全く別のものです。



臓器提供の流れ

臓器提供は、脳死下あるいは、心臓が停止した死後にできますが、どちらも心臓が停止した後での連絡では間に合いません。臓器提供についてお考えの場合は、主治医にお申し出ください。

① 本人の意思表示や家族の申し出

主治医等の意思が脳死と診断し、家族から「臓器提供について説明を聞きたい」との申し出があれば、移植コーディネーターが伺い、臓器提供に関する説明をします。



② 家族の意思決定

説明を聞きたくないと思われた時は、いつでも断ることができます。移植コーディネーターから説明を受けた後、十分に話し合いをして臓器を提供するかどうかを家族の総意として決めます。提供しないと判断しても不利益な扱いを受けることはありません。



③ 脳死判定(脳死下提供時のみ)

家族の承諾があれば、脳死判定が行われます。脳死判定は法に基づいた厳格な方法です。2回目の脳死判定が終了した時刻が死亡時刻となります。家族が希望すれば脳死判定に立ち会うこともできます。



④ 移植を受ける患者の選択

移植を希望する人は(社)日本臓器移植ネットワークに登録されています。提供される臓器が最も適した患者(レシピエント)に移植されるように医学的な基準が作られており、コンピューターによって公平に選ばれます。



⑤ 臓器の搬送

レシピエントが選ばれると、提供する臓器の摘出手術が行われます。摘出された臓器は、移植手術を行う施設に迅速に運ばれて移植されます。ひとりの提供が数人の命につながります。

臓器提供意思表示カード

厚生労働省・(社)日本臓器移植ネットワーク
ドナー情報専用全国共通連絡先:0120-22-0149



このカードは常に携帯してください。
臓器移植に関するお問い合わせ先: 0120-78-1069
(社)日本臓器移植ネットワーク <http://www.jotnw.or.jp>



臓器移植は善意の提供があってこそ成り立つ医療です。

あなたの意思で救える命があります。



厚生労働省
(社)日本臓器移植ネットワーク